

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	会 議 ← 打合せ → 協 議	文書番号	安政推第 2654 号
		決裁期日	令和 8 年 10 月 9 日
名 称	令和 8 年度 第 2 回安平町未来創生委員会		
日 時	令和 8 年 9 月 3 0 日 午前・ 午後 3 時 0 0 分 ～ 5 時 1 5 分		
場 所	総合庁舎 大会議室 (オンライン有)		
出 席 者	委 員 9 名 外部有識者 2 名 事 務 局 政策推進課 4 名		
会議概要	1 開会 ◇過半数以上の参加により委員会が成立していることを宣言 ◇委員長挨拶 2 安平町未来創生委員会外部有識者について ◇委員の変更について (外部有識者 1 名の退任) 3 議事 (1) 前回の振り返りと本日の議題の確認について ◇資料に基づき説明：事務局 ◇質疑応答要旨 <質問者> ・なし (2) 第 3 次安平町総合計画策定について ◇資料に基づき説明：事務局 ◇意見要旨 ➤ 第 2 章・第 3 章の方向性について <事務局> ・これまでの 10 年は子育てと教育を「最重要施策」としてきたが、次の 8 年は子育てや教育は町の強みになってきていることを軸としつつ、次のフェーズとして、すべての世代が安心して幸せに暮らせるまちづくりをしていくという方針を提案した。これについて各委員の感想を伺いたい。 <A 委員> ・方向性は良い。教育ではシニアクラスができ、いろんな世代にアプローチしている点が非常に良い。 ・健康についても体操教室や環境が充実しているのもよい。 <B 委員> ・子育て施策の評判が良く、会社でも引っ越した人が居るなど、浸透を感じる。次のフェーズとしてすべての世代の「しあわせ」に向けプラスアルファしていくことがよい。 <事務局> ・義務教育学校をきっかけに移住した方に居続けてもらうという観点では、移住者とのコミュニティづくりや接点づくりがポイントになる、と別会議で意見があった。 <C 委員> ・子ども支援策や教育環境はヒット商品のようになっていてよい。 ・一方で子どもや子育て世代に特化しすぎて高齢者が置き去りになっていると考えてい		

	る人もいる。安心して生活するには医療・福祉が大きいと思うので、掘り下げてほしい。 <事務局> ・10年は教育に最大限フォーカスして発信したが、高齢者福祉なども取り組んできているので、次の8年間は町民への伝え方も含めて意識を向けながら進めていきたい。 <D委員> ・経済的に安定していなければ、教育にお金を投じることが難しい。土台作りは重要であるので、第3次計画は財政や医療を重要視していくなど、第2次と違う方法でまちづくりを考えていくのが良い。 <E委員> ・安平町で力が入っているのは幼少期～義務教育。 ・子どもが成長して高校や大学へ進学していく中で、8年前、子育てを重視して移住した自分自身も安平町に住み続けるか、というのは現在悩んでいるところ。進学先へのアクセスなどを考えていくべき。 <F委員> ・世の中への浸透度は速い町だとおもうので、次のまちづくりについても情報発信をしっかりしていければよい。 <G委員> ・「子育てに偏っている」という印象が強いため、全世代に目を向けていることがわかるような発信が重要。 ・移住者はまちづくりに関心があり、つながりを求めていると感じるので、移住者のつながりを広げていくような施策を計画の中で示していければ。 <事務局> 人づくりもまちづくりのポイントだと思うので、計画の中にも反映できればと思う。 <D委員> ・安平は自然や薪ストーブなどを好む方がいるなど、「ほどよい田舎」として選ばれていると感じている。移住の方が困らないよう、自治会などのコミュニティにアクセスできるようサポートしたい。 <C委員> ・子育てが終わった世代の流出を防ぐまちづくりが必要。車を手放した世代にとっては交通機関の利便性が低い。この考えが増えれば、人口減が進み、計画自体崩れてしまうので、もっと具体的な対策として明記すべき。 <H委員> ・子育てが終わった世代への対策を早く出していないと、先に人口が流出してしまう。 <事務局> ・町民まちづくり会議でも同様の心配のご意見があり、施策の中で考えていく必要がある。 <A有識者> ・今までは高齢者からの意見が中心だったが、E委員のように30～50代の子育て世代から意見が出るのは非常に頼もしい。次の8年はぜひ子育て世代の方や移住された方にまちづくりに積極的に関わっていただきたい。 ・愛着度・定住率90%という数値は高く、数字ありきとならないよう検討が必要である。 <事務局> ・目標値はもう少し現実的な数字で改めてご提案させていただければと思う。 <B有識者> ・子ども中心だからこそ生まれるつながりやまちづくりがある。こども園エンジョイ組は斬新な取組であり、65歳以上のクラスが子ども園の中にあることによって災害に強いまちづくりの核となる。こどもを中心によって「生涯現役・挑戦する雰囲気」というまちの雰囲気に繋がると思うので、「どの世代も未来への町づくりを営む」という点をもっと強調してもいいのでは。
--	---

➤ 政策分野の再編について

＜事務局＞

- ・第3次総合計画では従来の6分野から整理し、5つの政策分野を設定する方針を示した。新たな分野は以下のとおりで、第一分野「学び・人づくり」は従来の子育て・教育と人づくり・コミュニティを統合する案。
- ・重点プロジェクトをモデルフレームワーク化した部分もポイントである。これについて各委員の感想を伺いたい。

＜B委員＞

- ・経済産業分野について、さらなる成長のためには住民への情報共有や情報発信が強みとなるので取り組んでほしい。今後の施策で具体的な予定はあるか。

＜事務局＞

- ・どのように新たな事業戦略を立てていくかというのは目下制作中で具体はない。SWOT分析をもとに、次の基本計画のなかで具体的な施策をお示しできればと思う。

＜A有識者＞

- ・コミュニティの政策分野はどこになるか？ 1の「学び・人づくり」に統合することで生涯学習や釈迦教育団体などのコミュニティに繋がり、政策分野に入ってくるのでは。
- ・自治会のコミュニティは世代が限られる。

＜事務局＞

- ・第二次の「コミュニティ」から2つの分野に分かれたイメージ。自治会などは4の生活基盤のなかの「地域コミュニティ」に含まれ、一方で社会教育分野のコミュニティは1番「学び・人づくり」にも含まれている。

＜B有識者＞

- ・1番の「コミュニティ」は最下層で全体を支えていた方が納得する。こどもがすべてのエンジンになっていることが大事。
- ・政策分野は5つでいいが、その構成の見せ方は工夫があってもよい。

＜事務局＞

- ・子育て以外の全世代に向けたまちづくりであることを強調するにあたり1番にもってきたところであるが、分野をまとめる表現などは役場内でも検討中であり引き続き考えていきたい。

➤ キャッチコピーについて

◇資料に基づき説明：事務局

◇質疑応答要旨

＜事務局＞

- ・町の皆さんからいただいていた声や表現をもとにキャッチコピー案を作成したので、決め方の方向性などについてご意見伺いたい。

＜A有識者＞

- ・「すべての人が暮らしていてよかったと思われ続けられる」といったようなこれからの8年間で目指す基本構想の中身がキャッチフレーズで連想され、まちづくりの拠り所になるものだとよい。
- ・第二次計画にあったサブタイトル的な補足は、第三次もつくるのか？

＜事務局＞

- ・第二次計画の際にあった文言は、町民町づくり会議を何回か重ね、町民の方々とディスカッションして目指す理想像として一旦生まれた言葉だと思う。今回、可能であれば皆さんがよいと思うキャッチコピー案までを答申に盛り込みたい。
- ・補足をつけないことを想定していたが、ご意見伺いたい。

＜H委員＞

- ・短文＋王道といった形式でもいいのでは。誘致企業会の名刺に短文のキャッチコピーが入っているといいなと思う。

<B有識者>

・キャッチコピーを決定するプロセスが大事。今回で話し合ったことをどう町民に伝えていくかがしっかりしていれば、どの案でも自分たちの言葉となると思う。

<事務局>

・キャッチフレーズについては今後メールなどでご意見いただきたい。

4 その他

◇全体的な質問等について

<質問者>

・特になし。

5 閉会 (17:15)

以上